

本年度の 重点目標	「着実な前進と創造性のある教育の推進」 ① 授業規律の向上と「自ら参加する授業」の実践 ② 他を思いやる気持ちを元にした規範意識と社会道徳の涵養 ③ 計画性のある進路指導の一層の充実 ④ 交通安全意識の啓発と事故防止対策の充実 ⑤ 地域の中学校との密な情報交換を通じた連携 ⑥ 生徒の心身の健康状態を高め、出席率の向上の促進 ⑦ 実効性のある働き方改革への取り組みを推進		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	最終評価
生徒指導部	規範意識の醸成	①授業規律の確立に努める。 ②遅刻・欠席を減らす。 ③反社会的・非社会的行動をさせないよう努める。	授業態度はおおむね良好であり、規律ある授業が展開されている。また、遅刻指導に重点を置いて指導を続けてきたことにより、遅刻者は全体としては減少傾向にあるが、数名の遅刻の多い生徒に改善があまり見受けられないのが現状である。特別指導は数件あったが、件数、内容ともに大幅に減少している。今後、過度な装飾などをする生徒に対しての指導の徹底が課題である。
	心の教育の充実	①自己肯定感を持たせるように努め、他を思いやり協力する姿勢を育む。 ②教育相談を積極的に活用する。	学校生活全般を通じて心の教育に努めている。行事などに自ら進んで取り組み、他を思いやり協力する生徒がいる一方、一部に人間関係を上手く作れないような生徒がいるのが現状である。教育相談などを活用しながらさらに粘り強く指導をしていきたい。
	いじめの未然防止と早期対応	①生徒の状況把握と情報共有に努める。 ②いじめにつながりかねない事案への積極的対応に取り組む。	毎日の声かけや、保護者や出身中学校との情報交換などを通して生徒の情報把握に努めている。特に、いじめにつながりかねない言動には、情報を共有しながら迅速に対応することができている。 (いじめアンケート結果 校内におけるいじめ0件)
教務部	授業規律の向上	「授業中の問題行動に関する報告書」などを活用したり、生徒指導部、特別支援教育などと連携したりして、授業態度に問題のある生徒に対し、より早期により多くの教員で対応することにより、態度の改善を図る。	今年度より新しい試みとして「教務指導」を始めた。これは、主に学習に関する問題行動に対し、教務主任や担当の教員が諭すことにより行動の改善をはかるものである。そのため報告書として「授業中の問題行動に関する報告書」を教科担当教員より提出してもらうこととした。1月までで十数枚の報告書が提出され、個別の指導や教員の共通理解に役立てることができた。今後、より効果的な利用方法を模索し、定着を図りたい。
進路指導部	進路ガイダンスの充実	それぞれの学年に適した進路ガイダンスを学期ごとに実施する。	1・2学期は、各学年の課題に則した進路ガイダンスを実施することができた。特に第4学年は、就職活動に向けて具体的に求人票の見方や模擬面接などに取り組むことができた。また、3学期には様々な職業を体験できる講座を実施した。
生徒会部	学校行事の充実	現状の生徒の実態に合わせた生徒会行事を実施する。	生徒会行事を精選し、ルールの変更や、新しい企画を考えた。生徒会役員の生徒は、意欲的に取り組むことができています。
	部活動の充実	運動部・文化部が年間をとおして意欲的に安全に活動できるようにする。	全ての部活動が意欲的に、また安全に留意して、活動することができた。運動部のバドミントン部・柔道部・陸上部は、全国大会や東海大会に出場し、優秀な成績を残している。
総務部	各式典の充実	70周年記念式典や卒業式に向け、式典に対する態度や心構えを指導する。	70周年記念式典を前に全体指導を実施し、式典の意義を理解させ、参加態度や心構えを自覚させることができた。
保健・給食	救急体制の確立	①要健康管理生徒やアレルギー疾患を持つ生徒の緊急時の連絡体制を確立する ②エピペン研修等、職員への研修の充実を図る	① 要健康管理生徒やアレルギー疾患を持つ生徒情報を職員に周知し、緊急時に適切に対応できるようマニュアル等の作成を行った。 ② アレルギーの基礎知識やエピペンの打ち方等の映像とエピペントレーナーを使って研修を行った。また、安全衛生委員会の職員研修でエピペン研修を行った。
	教室内の環境整備の徹底	環境整備の為に以下のことを行う。 ①安全点検の実施 ②大掃除での清掃 ③使用教室の空調設備及び日照点検	① 予定通り年度内に3回、安全点検を行い、環境設備を修繕できた。 ② 全生徒が落ち着いて、大掃除に取り組む事が出来、教室環境を整備できた。 ③ 当初の予定通り行い、空調設備及び日照に問題がないことが確認できた。
総合評価	一年を通じ各分掌の具体的方策が着実に実行され、それぞれの重点目標をほぼ達成することができた。特に今年度から導入した「教務指導」により、従来よりも生徒の問題事例に対して、きめ細かにかつ段階的な指導を行うことができ、後半の生徒の落ち着いた学校生活へとつながった。このことは更に各集会・70周年記念式典・学校行事等の生徒全体で活動する際の規律向上となり、各行事の中身そのものの質的向上も見られ、生徒の活気ある姿が随所に見られた。 課題としては継続的なものになるが、精神的に不安定な生徒や欠席・遅刻・早退等を繰り返して出席時間数不足となる生徒への対応である。これらの問題は、生育歴や家庭環境の影響も大きく、根本的な解決には時間と手間がかかることではある。しかし、進級・卒業にも直接関わることになるので、職員が情報交換を密にし、組織として対応していくことを大切にしていきたい。		